

ご使用の前に、必ずこの「取扱説明書兼添付文書」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、「取扱説明書兼添付文書」は必ず保管してください。

安全にお使いいただくために

注意文の表示内容

本取扱説明書兼添付文書では、表示内容に従わず、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。
お使いになる方や、他の人々への危害や財産への障害損害を未然に防止するため、表示内容に従ってご使用ください。

警告

特に注意していただきたいことを示します。

- 適正に使用しても、注意を怠ると死亡又は重傷を負う可能性が想定されます。

禁忌・禁止

絶対に行ってはいけないことを示します。

- 本品の性能を超える、又は不適正な使いかたにより、死亡又は重傷を負う危険性があります。

警告、禁忌・禁止

警告

- 子供だけで使わせないでください。[本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性があります。]

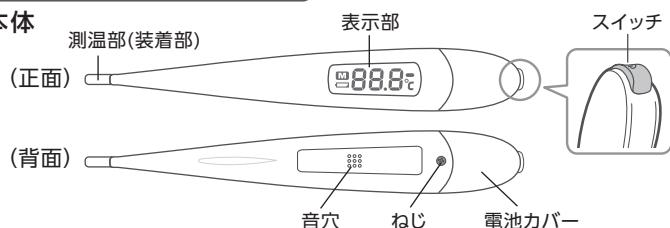
禁忌・禁止

- 引火性のある環境では使用しないでください。[引火又は爆発の誘因となる可能性があります。]

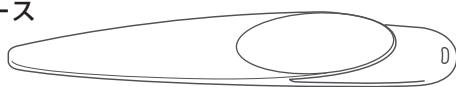
形状・構造及び原理等

構造図

● 本体



● 収納ケース



● 表示部 ※説明のため、全点灯で表示



外観寸法: 長さ129mm×幅17.6mm×厚さ12.6mm

質 量: 約12.5 g (電池含む)

付 属 品: 収納ケース

【機器の分類】

電撃に対する保護の形式による分類: 内部電源機器

電撃に対する保護の程度による装着部の分類: BF形装着部

【電気的定格】

電 源: アルカリマンガン電池 (LR41) 2個 (交換可)

電 圧: DC3.0V

消費電力: 約3.0mW

原 理

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約4分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示します。検温中は、平均約20秒(おおよそ16～25秒)で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴ります。ブザー聞き逃し低減のため、予測成立後約60秒間は間欠的に鳴動します。検温をそのまま続けると検温開始から約10分後に実測検温終了のブザーが鳴ります。
なお、本品をワキ下から取り出すことによる温度低下をサーミスタで検知するよう設計されており、予測成立後に本品の取り出しが検知されると、予測成立ブザーは停止します。

【付帯機能】

- | | |
|--------------------|---|
| 初期動作確認機能 (告知機能) | : 電源ON時に所定の表示をし、検温可能を告知する。 |
| 予測成立ブザー機能 (告知機能) | : 予測成立時にブザーが鳴動する。 |
| 定刻ブザー機能 (告知機能) | : 検温開始から約10分後にブザーが鳴動する。 |
| エラー表示機能 (告知機能) | : 検温不良時、ブザーが鳴動し、表示部に「E」を表示する。 |
| 使用温度範囲外表示機能 (告知機能) | : 使用周囲温度が、使用条件の範囲外の場合は、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。 |

体温値点滅表示機能 (告知機能): 体温計の測温部が大きすぎた場合等で正常な予測検温が行われなかった際は、その旨を体温値の点滅で告知する。

動作不能告知表示機能 (告知機能): 体温計が動作異常を検知した場合は、「EE」のマークを表示する。

電源入切機能 (電源制御機能): スイッチを押すごとに電源がON/OFFする。

オートパワーオフ機能 (自動電源遮断機能): 検温せずに所定の時間放置すると電源が遮断する。また、検温終了後所定の時間放置すると電源が遮断する。

【仕様に係る事項】

- 最大許容誤差 (温度指示特性): $\pm 0.1^{\circ}\text{C}$ 以内 (恒温水槽を用いて約1分間測定したときの表示温度の、標準温度計に対する誤差)

- 測温範囲: $32.0\sim 42.0^{\circ}\text{C}$

- 使用条件: 周囲温度 $10\sim 40^{\circ}\text{C}$

相対湿度 $30\sim 85\%\text{RH}$ (ただし、結露なきこと)

気 圧 $700\sim 1060\text{hPa}$

使用目的又は効果

使用目的

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

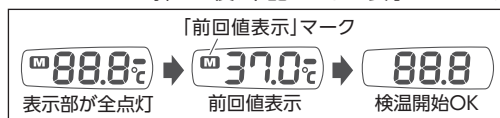
使用方法等

体温の測りかた

① 体温計側面のへこみをしっかりつかみ、収納ケースから取り出す

② 「スイッチ」を押す

スイッチを押した後、下記のように表示されます。



注意

- 「検温開始OK」であることを確認してから使用してください。

※ 購入後初めて使用するとき及び電池交換時は、前回値はありませんので「M - - -」と表示されます。

③ 体温計側面のへこみをしっかりつかみ、体温計の測温部をワキの下中央に斜め下から30度くらいの角度で深く入れる

注意

- 電源を入れるときや測定開始前に、体温計の先端(測温部)に触らないでください。
- ワキ下に汗をかいている場合は、タオル等で汗を拭き取ってください。
※汗をかいたまま測ると、ワキ下が冷えているため正確に測定ができません。

- 横向きだと先端(測温部)が出てしまうのでダメ!

- 下向きだと先端(測温部)がワキの下の中心にあたらぬのでダメ!

④ ワキをしっかりと閉じて待つ

注意

- 体温計をはさんだ方の手のひらを上に向け、もう一方の手でひじを脇腹に押さえつけるようにして、ワキの下に体温計をしっかりと密着させてください。特にお年寄り、やせている方は注意してください。
- 検温中は、体温計の先端(測温部)が正しい位置からずれないよう、体を動かし、体温計を動かしたりしないでください。

⑤ 電子音が鳴ったら取り出す

約20秒で予測検温が終了します。

予測検温中は、予測マークを表示します。

注意

- ワキから取り出さなかった場合は、繰り返し電子音が鳴ります(最初の電子音から約15秒毎に約60秒間)。
- 取り出してから表示値が変化したときは、変化後の値を読み取ってください。
- 数値を読み取る際は、体温計の先端(測温部)に触れないでください。表示が変化することがあります。
- 体温計の位置がずれたりすると表示が点滅します。最初から測り直してください。

医師の指示などにより特に厳密な体温管理が必要な場合は、電子音が鳴っても取り出さずに検温を続けます。検温開始から約10分後に再び電子音が鳴ったら、実測検温終了です。



6 1秒以上スイッチを押して電源を切り、収納ケースに収納する

電源を切り忘れても、約3分後に自動的に電源が切れます。

- 注意**
- 乾いた布等で水気を拭き取ってから収納ケースに収納してください。
 - くり返し検温するときは、少し時間をおくなど、体温計の先端(測温部)を冷ましてから検温してください。そのまま測ると、測定値が高くなる場合があります。

●お子様の体温を測るときには

お子様をひざに乗せ、後ろから抱きかかえるようにしてワキをしっかり閉じさせてください。

- お子様が眠っている場合でも、手で押さえてワキを閉じてあげてください。

電池の取り替えかた

こんなときは電池交換が必要です。

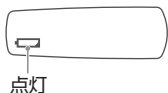
本体に装着された電池は、お試用であり寿命が短い場合があります。アルカリマンガン電池(LR41)2個を用意し、交換してください。

「電池電圧低下」マークが点滅



点滅

「電池電圧低下」マークだけが点灯



点灯

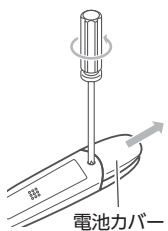
電源スイッチを押しても何も表示されない



何も表示されない

1 小型のプラス(+)ドライバー(サイズ:0番用)で背面のねじを外し、電池カバーを取り外す

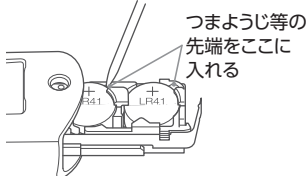
- 注意**
- 外したねじ、電池、電池カバーは子供の手の届かないところに置いてください。誤飲の可能性があります。
 - 合わないドライバーを使用すると、ねじの頭がつぶれることがあります。



電池カバー

2 つまようじ等で電池を取り出す

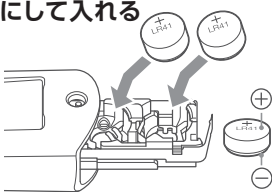
- 注意**
- 金属製の棒等は使用しないでください。又、内部の部品に触れたり、引っ張ったりしないでください。故障の原因になります。



つまようじ等の先端をここに
入れる

3 新しい電池(LR41)を、2個とも⊕を上にして入れる

- 注意**
- 同じ種類の新品の電池2個を同時に取り替えてください。古い電池を混ぜて使用すると、電池が発熱し、故障の原因となります。
 - プラス、マイナスの向きを間違えて入れると、故障の原因となります。



4 電池カバーを本体に取り付けて、ねじをしめる

- 注意**
- ねじを強くしめすぎると、破損の原因となります。
 - 電池カバーと本体との間に異物等が挟まらないように注意してください。

5 電源スイッチを入れ、正しく表示されることを確認する



表示部が全点灯

前回値表示※

検温開始OK

※電池交換後、一度測定するまで前回値は「---.---」と表示されます。

- 注意**
- 電池の使い方を誤ると、電池が漏液、発熱、破裂したり、けがや本体の故障の原因となるおそれがあります。
 - 指定以外の電池を使用しないでください。故障の原因となります。

使用上の注意

- 注意**
- 使用にあたり、一般的な注意を示します。
- 誤って使うと、傷害を負う可能性、又は物的損害※のみの発生が予想されます。
- ※物的損害とは、家屋、家財、及び家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

使用方法等に関連する使用上の注意

- 体温は、時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しています。また個人差、年齢等でも違いが見られます。自分の正しい平熱をあらかじめ検温しておいてください。
- 健康な時の一日の体温変動を理解しておくことは大切です。時間を決めて体のリズムをチェックしてください。
- 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ってください。
- 測定時に、体温計の先端(測温部)を正しい位置にあてていないと、低く表示されることがあります。再度検温してください。
- 体が冷え切っていると、低く表示されることがあります。再度検温してください。
- 体温計が冷えているときは、室温になじませてから、再度検温してください。[低く表示されることがあります。]
- くり返し検温するときは、少し時間をおくなど、体温計の先端(測温部)を冷ましてから検温してください。[そのまま測ると、測定値が高くなる場合があります。]

- 数値が点滅するときは、再度検温してください。[1回目の電子音が鳴る前に、体温計の位置がずれた可能性があります。]
- 電池や電池カバーを無理な力で押し込まないでください。[本体が破損する可能性があります。]
- 電池の電解液が、目、皮膚、衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。[失明やけがのおそれがあります。]
- 電池を重ねて置かないでください。[発熱、発火の原因となります。]
- 電池を火の中に投げ込まないでください。
- 長期間使用しない場合は、電池は取り外して保管してください。

重要な基本的注意

- 人の体温測定以外に使用しないでください。
- ワキ下以外で測定しないでください。
- 測定結果の自己診断、治療は行わないでください。
- 取扱説明書兼添付文書を確認の上、使用してください。
- 使用前に、外観を確認し、破損等の異常が認められた場合は使用しないでください。[検温値の異常や、けがの可能性があります。]
- 破損したものは使用しないでください。[検温値の異常や、けがの可能性があります。]
- 強くかまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないでください。[破損や故障の原因となります。]
- 本品に液体や異物が入らないようにしてください。[内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因になることがあります。]
- 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないでください。[誤作動や故障の原因となります。]
- 本品は気密構造ではないので、活性ガス(消毒用ガスも含む)環境や多湿環境等で使用、放置しないでください。[内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因となります。]
- 使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないでください。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性があります。]
- 本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないでください。[本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となります。]
- 分解、修理、改造は行わないでください。[破損や故障の原因となります。]
- 本品の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでつついたりしないでください。[表示部の破損や故障の原因となります。]

保管方法及び有効期間等

保管方法

暖房器具のそば、車の中、日光や紫外線等の強い光が当たる場所、ほこりの多い場所、湿気の多いところに保管したり、放置しないようにしてください。

保管・輸送条件:周囲温度 -10~50℃

相対湿度 30~95%RH (ただし、結露なきこと)

気 圧 700~1060hPa

【保管上の注意】

- 日光や紫外線等の強い光が当たる場所に保管したり、長時間放置しないでください。[変色、劣化や故障の原因となります。]
- 収納ケースに収める際は、乾いた布等で水気を拭き取ってください。[本品の防水構造は先端(測温部)から5cmまでのため、水気が付いたまま収納ケースに保管すると故障の原因となります。]

【電池について】

使用回数:予測検温 約5000回

実測検温 約300回

お願い

本品や使用済みの電池を廃棄する際は、各自治体のルールに従って適正に処理してください。

耐用期間

耐用期間:4.5年(自己認証による)

保守・点検に係る事項

【保守点検上の注意】

- 長期間使用していなかったときは、「電池電圧低下」マークが点灯または点滅していないことを確認してから使用してください。
- 本品の防水構造は先端(測温部)から5cmまでのため、水洗いはしないでください。故障、測定精度低下の原因となります。本体の汚れを落とすときは、布等を水又はぬるま湯に浸し、よく絞ってから音穴をさけて拭き取ってください。
- シンナー等の有機溶剤、ボビドンヨード、クレゾールは使用しないでください。
- 消毒液に浸さないでください。
- 使用可能な消毒液は、クロルヘキシジングルコン酸塩/ベンザルコニウム塩化物です。(用法及び用量はその製品の添付文書に従ってください。)
- ドライヤー等を使用して乾燥させないでください。
- 熱湯消毒はしないでください。
- 超音波洗浄はしないでください。

製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等

製造販売業者: テルモ株式会社

電 話 番 号:0120-008-178

〒151-0072東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号

テルモ・コールセンター

● 次のものがそろっていますか？

万一、不足しているものがあるときは、すぐにお買い上げの販売店又はテルモ・コールセンター（☎ 0120-008-178）までご連絡ください。

この体温計の販売名はテルモ電子体温計C232です。

● 本体 ● 収納ケース ● 取扱説明書兼添付文書／EMC技術資料／品質保証書
※ アルカリマンガン電池（LR41×2、本体内部） お試用のため、寿命が短い場合があります。

● 故障かな?と思ったら

故障が疑われる場合は、まず以下の項目について確認をお願いいたします。
それでも問題があるときは、「保証規定」をお読みの上、テルモ・コールセンターへご連絡ください。

こんなときは	原因	対処方法
 が表示される。	1回目の電子音が鳴る前に、体温計が外れた。	一度電源を切った後、再度検温してください。 (●「体温の測りかた」)
 が表示される。	検温値が42℃を超えている。	人の体温測定以外には使用しないでください。
電子音が止まらない。 初期表示が正常ではない。	静電気による誤動作。	一度電池を外して、入れ直してください。 (●「電池の取り替えかた」)
 が表示される。		
10分経過時の電子音が鳴らない。	予測検温の電子音が鳴った後、体温計の位置がずれた。	再度検温してください。 (●「体温の測りかた」)
ワキの下から取り出したときに、何も表示されていない。	体温計をあてるときなどにスイッチに触れて、電源が切れた。	電源を入れ直して、再度検温してください。 (●「体温の測りかた」)
	予測検温の電子音が鳴った後、体温計の位置がずれた。	
 が表示される。	使用可能な周囲温度の上限を超えている。	表示が消える（「88.8」が表示される）まで、室温になじませてから、検温してください。
 が表示される。	使用可能な周囲温度の下限を超えている。	

● 仕様

販売名	テルモ電子体温計C232	表示方式	液晶表示素子による体温値3桁デジタル表示
型式	C232	製造年月日	本体銘板のロットNo.に記載 例:18-F01A [製造年(YY)-月(A-L)日(DD)]
测温方式	予測式 (予測検温・実測検温兼用)	本品はEMC規格 IEC 60601-1-2:2007に適合しております。 CISPRグループ分類:グループ1 クラス分類 :クラスB	
温度検出	サーミスタ		
検温部位	ワキ下		

● シンボル

	BF形装着部		取扱注意		湿度制限
	スタンバイ		水ぬれ防止		気圧制限
	リサイクル (プラスチック)		直射日光禁止		上積み 段数制限
	リサイクル (ダンボール)		温度制限		正しい上向き 位置を示す
	リサイクル (紙)		取扱説明書 を参照		基準適合証印

品質保証書

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
品質には万全を期しておりますが、通常のご使用において万一故障が発生したときは、保証規定により無償対応いたします。
品質保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

販売名：テルモ電子体温計C232

お名前：

ご住所：

TEL：

製造販売業者：テルモ株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号

お買い上げ販売店名：

お買い上げ年月日：

年 月 日

検査合格証



しっかり
検温
プログラム

平均約20秒で測れるひみつ

テルモ体温計C232は、多数の体温上昇データをテルモ独自のアルゴリズムで解析し、10分後の**平衡温（へいこうおん）**がどのくらいになるのかを、短時間に演算します。したがって、わずか20秒程で平衡温を測定することができます。



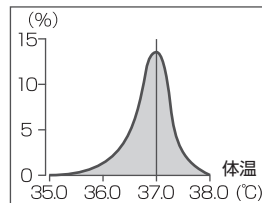
「平衡温」とは？

ワキの温度は「体の表面の温度」ですが、しっかり閉じることで体の内部の温度が反映されて温まります。この完全に温まったときの温度を**平衡温（へいこうおん）**と言います。平衡温に達するには、ワキを閉じてから、10分以上かかります。

37℃は発熱とは限りません

熱を測って37℃あると、「熱が出た!」と思いがち。ところが、37℃は平熱の範囲内なのです。

正しく測れば、子供からお年寄りまで、健康なときの体温の平均値は36.89℃±0.34℃（腋窩：ワキ下検温）。だから37.0℃の平熱の人は珍しくありません。平熱は人によって異なるものです。



日本人の体温分布

文献) 田坂定孝
日新医学 44:633,1957

体温計は清潔にして使いましょう

人のワキの下には「皮膚常在菌」という細菌群が住み着いています。この細菌は病気や高齢などで体が弱った人に対し、病気を引き起こすことがあります。また感染症が流行しているときの体温計は特に要注意です。

さらに詳しい情報は

テルモ体温研究所のホームページをご覧ください。

テルモ体温研究所

検索

<http://www.terumo-taion.jp/>

テルモ体温研究所 体温から健康に

テルモ体温研究所は体温をキーワードに新しい健康生活を提案していきます。

ご相談・お問い合わせ先

この商品に関するご相談やお問い合わせは、販売名をご確認の上、お買い上げの販売店又は「テルモ・コールセンター」にご連絡ください。

テルモホームページアドレス <http://www.terumo.co.jp/>



この体温計の販売名は **テルモ電子体温計C232** です。

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。

テルモはテルモ株式会社の登録商標です。

©テルモ株式会社 2018年6月

ET_C232,H_J_500_001

保証規定

- (1) 保証期間は、お買い上げ後1年間です。
- (2) ご使用中、故障が発生した場合はテルモ・コールセンターへご連絡ください。
- (3) 保証期間中に、通常の使用において万一故障が発生したときは、品質保証書を現品にそえて送付していただければ、無償対応いたします。
- (4) ただし、以下の場合は保証期間中でも有償になります。
(イ) ご使用中で取扱いの過誤(落とし、強いショックを与える、水をかけるなど)により発生した故障。
(ロ) 正しい状態(使用後は収納ケースに入れるなど)でご使用にならなかった場合。
- (ハ) 消耗部品(電池)
- (ニ) 製品の改造、不当な修理により発生した故障。
- (ホ) 火災、地震、水害等天災地変などの不可抗力による故障及び損傷。
- (ヘ) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
- (ト) 上記以外で弊社の責に帰することのできない原因により発生した故障。
- (チ) 品質保証書のご提示がない場合。
- (リ) 品質保証書にお買い上げ日、販売店名の記載がない場合(ただし、お買い上げのレシートでも可)、また、字句を書き換えられた場合。
- (5) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

テルモ電子体温計C232

本製品は、医用電気機器の安全使用のために要求されているEMC（電磁両立性）規格、IEC 60601-1-2：2007に適合している装置です。

お使いいただく際は、本製品に付属の取扱説明書兼添付文書をよく読んでお使いください。

■ EMC（電磁両立性）とは

EMC（電磁両立性）とは、次の二つの事項を満たす能力のことです。

- 周辺の他の電子機器に、許容できない障害を与えるようなノイズを出さない。（エミッション）
 - 周辺の他の電子機器から出されるノイズ等、使用される場所の電磁環境に耐え、機器の機能を正常に発揮できる。（イミュニティ）
- IEC 60601-1-2に代表されるEMC規格は、医用電気機器を安全に使用するため、機器から発生するノイズが他の機器に影響を及ぼしたり、他の機器（携帯電話等）が発する電磁波から受ける影響を、一定のレベル以下に抑えるよう規程した規格です。
- IEC 60601-1-2：2007（5.2.2.1項）において、機器が安全に機能するためのEMC環境に関する詳細な情報を使用者に提供することが求められているため、EMCにかかわる技術的な説明を以下に記載します。（詳細は、IEC 60601-1-2：2007をご参照ください。）

■ EMC（電磁両立性）にかかわる技術的な説明

医用電気機器は、EMCに関して特別な注意を必要とし、次に記載するEMCの情報に従って使用する必要があります。

- 【注意】**
- 本機器は電磁両立性（EMC）に関して、特別な注意が必要であり、本書に記載されたEMC情報に基づいて使用しなければならない。
 - 携帯及び移動無線周波（RF）通信機器により本機器は影響を受けることがある。
 - 本機器は、他の機器に密着させたり、重ねた状態で使用しないこと。

表1－ガイダンス及び製造業者による宣言－電磁エミッション－すべての機器及びシステムに関する（5.2.2.1 c）を参照）

ガイダンス及び製造業者による宣言－電磁エミッション		
テルモ電子体温計C232は、次に指定した電磁環境内での使用を意図している。テルモ電子体温計C232の顧客又は使用者は、このような環境内でそれが使用されることを確認することが望ましい。		
エミッション試験	適合性	電磁環境－指針
RFエミッションCISPR 11	グループ1	テルモ電子体温計C232は、内部機能のためだけにRFエネルギーを使用している。したがって、そのRFエミッションは非常に低く、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は少ない。
RFエミッションCISPR 11	クラスB	テルモ電子体温計C232は、下記を含む全ての施設での使用に適する。 含むのは、家庭用施設、及び家庭目的に使用される建物に電力を供給する公共の低電圧用の配電網に直接接続された施設である。
高調波エミッションIEC 61000-3-2	非適用	
電圧変動/フリッカエミッションIEC 61000-3-3	非適用	

表2－ガイダンス及び製造業者による宣言－電磁イミュニティ－すべての機器及びシステムに関する（5.2.2.1 f）を参照）

ガイダンス及び製造業者による宣言－電磁イミュニティ			
テルモ電子体温計C232は、次に指定した電磁環境内での使用を意図している。テルモ電子体温計C232の顧客又は使用者は、このような環境内でそれが使用されることを確認することが望ましい。			
イミュニティ試験	IEC 60601試験レベル	適合レベル	電磁環境－ガイダンス
静電気放電（ESD） IEC 61000-4-2	±6kV 接触 ±8kV 気中	±6kV 接触 ±8kV 気中	床は木材、コンクリート又はセラミックタイルであることが望ましい。 床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は少なくとも30％であることが望ましい。
電氣的ファーストトランジェント/バースト IEC 61000-4-4	±2kV 電源ライン ±1kV 入出力ライン	非適用	非適用
サージ IEC 61000-4-5	±1kV ライン-ライン間 ±2kV ライン-接地間	非適用	非適用
電源入力ラインでの電圧ディップ、短時間停電及び電圧変動 IEC 61000-4-11	< 5 % U _r (> 95 % U _r のディップ) 0.5サイクル間 40 % U _r (60 % U _r のディップ) 5サイクル間 70 % U _r (30 % U _r のディップ) 25サイクル間 < 5 % U _r (> 95 % U _r のディップ) 5秒間	非適用	非適用
電源周波数（50/60 Hz）磁界 IEC 61000-4-8	3 A/m	3 A/m	電源周波数磁界は、標準的な商用又は病院環境における一般的な場所と同レベルの特性をもつことが望ましい。
備考 U _r は、試験レベルを加える前の、交流電源電圧である。			

表4－ガイダンス及び製造業者による宣言－電磁イミュニティ－非生命維持機器及びシステムに関して（5.2.2.2）を参照）

ガイダンス及び製造業者による宣言－電磁イミュニティ			
テルモ電子体温計C232は、次に指定した電磁環境内での使用を意図している。テルモ電子体温計C232の顧客又は使用者は、このような環境内でそれが使用されることを確認することが望ましい。			
イミュニティ試験	IEC 60601試験レベル	適合レベル	電磁環境－ガイダンス
伝導RF IEC 61000-4-6	3 Vrms 150 kHz～80 MHz	非適用	携帯形及び移動形RF通信機器は、テルモ電子体温計C232のいかなる部分に対しても、送信機の周波数に該当する方程式から計算された推奨分離距離より近づけて使用しないことが望ましい。 推奨分離距離 非適用
放射RF IEC 61000-4-3	3 V/m 80 MHz～2.5 GHz	3 V/m	$d = 1.2 \sqrt{P}$ 80 MHz～800 MHz $d = 2.3 \sqrt{P}$ 800 MHz～2.5 GHz ここで、Pは、送信機製造業者によるワット（W）で表した送信機の最大出力電力定格であり、dはメートル（m）で表した推奨分離距離である。 電磁界の現地調査 a) によって決定する固定RF送信機からの電界強度は、各周波数範囲における適合レベルよりも低いことが望ましい。 次の記号が表示されている機器の近傍では干渉が生じる可能性がある。 
備考1 80 MHz及び800 MHzにおいては、高い周波数範囲を適用する。 備考2 これらの指針はすべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収及び反射は電磁波の伝搬に影響する。 a) 例えば無線（携帯／コードレス）電話及び陸上移動無線の基地局、アマチュア無線、AM・FMラジオ放送及びTV放送のような固定送信機からの電界強度を、正確に理論的に予測をすることはできない。固定RF送信機による電磁環境を見積もるためには、電磁界の現地調査を考慮することが望ましい。テルモ電子体温計C232が使用される場所において測定した電界強度が上記の適用されるRF適合レベルを超える場合は、テルモ電子体温計C232が正常動作をするかを検証するために監視することが望ましい。異常動作が確認された場合には、テルモ電子体温計C232の、再配置又は再設置のような追加対策が必要となる可能性がある。			

表6－携帯形及び移動形RF通信機器と機器又はシステムとの間の推奨分離距離－非生命維持機器及びシステムに関して（5.2.2.2）を参照）

携帯形及び移動形RF通信機器とテルモ電子体温計C232との間の推奨分離距離			
テルモ電子体温計C232は、放射RF妨害が管理されている電磁環境内での使用を意図している。テルモ電子体温計C232の顧客又は使用者は、通信機器の最大出力に基づく次に推奨している携帯形及び移動形RF通信機器（送信機）とテルモ電子体温計C232との間の最小距離を維持することで、電磁障害を抑制するのに有効である。			
送信機の最大定格出力電力（W）	送信機の周波数に基づく分離距離（m）		
	150 kHz～80 MHz 非適用	80 MHz～800 MHz $d = 1.2 \sqrt{P}$	800 MHz～2.5 GHz $d = 2.3 \sqrt{P}$
0.01	非適用	0.12	0.23
0.1	非適用	0.38	0.73
1	非適用	1.2	2.3
10	非適用	3.8	7.3
100	非適用	12	23
上記にリストされていない最大定格出力電力の送信機に関しては、メートル（m）で表した推奨分離距離dは、送信機の周波数に対応する方程式を用いて決定できる。 ここで、Pは、送信機製造業者によるワット（W）で表した送信機の最大定格出力電力である。 備考1 80 MHz及び800 MHzにおいては、分離距離は、高い周波数範囲を適用する。 備考2 これらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収及び反射は、電磁波の伝搬に影響する。			